

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年1月20日  
江別市立文京台小学校

1 本年度の重点目標

- 重点1 子どもが主体となる授業改革に努め、未来へつなぐ学校づくり
- 重点2 他者を思いやり、ともに認め高め合う仲間づくりを進め、夢や希望を広げる学校づくり
- 重点3 地域とともに歩み、学んだことの意義を実感できる学校づくり

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

(自己評価は4点満点中、3.4…85%程度 を達成値に設定している。)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	<p>■本年度の重点目標が実現可能な具体性をもって明確に示され、実践されているか。</p> <p>【経営の重点と具体的な取組指標】</p> <p><b>重点目標：他とともに高め合い、なりたい自分へ挑戦し続ける文京台の子</b></p> <p>【重点1】主体的な学びとなる授業改革に努め、未来へつなぐ学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関わる評価の平均値 教職員…3.7 児童…3.5 保護者…3.4</li> </ul> <p>【重点2】他者を思いやり、ともに認め高め合う仲間づくりを進め、夢や希望を広げる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の豊かな心に関する評価の平均値 教職員…3.6 児童…3.7 保護者…3.3</li> </ul> <p>【重点3】地域とともに歩み、学んだことの意義を実感できる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や大学との連携に関する評価の平均値 教職員…3.7</li> </ul>	A	<p><b>評</b> 児童の実態と令和6年度の学校評価から、令和7年度の重点目標を上記の3点とした。昨年度末と今年度当初、重点目標とそれを受けた具体的な教育活動の姿を教職員で確認し、年2回の教職員・児童・保護者を対象とした学校評価（中間評価・年度末評価）を通して教育活動の見直しを行った。</p> <p>学校評価は達成値を3.4に設定した。多くの項目で達成もしくは達成に近い数値が出ていることから教育活動の成果が表れてきていることがわかる。</p> <p>今年度は「子どもを主語とする」学校づくりを掲げ、児童が自己の成長を意識できる工夫を行った。多くの項目で達成値に到達し、教育活動の成果が表れている。一方、保護者評価は教職員・児童に比べて低い傾向があり、特に家庭読書については学校と家庭の取組に大きな差が見られた。</p> <p><b>改</b> 今年度の成果を継続し、深化させるために、次年度も「自主的から主体的へ」をキーワードに、児童が自ら考え判断し行動する場面を意図的に設定していく。学校評価の結果を積極的に公表し、課題を家庭・地域と共有することで、三者が一体となった教育活動を推進する。</p>	A	A
	<p>■重点についての取組や成果・取組状況等が広く発信され、家庭や地域の理解と協力を得て、学校経営が進められているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p><b>学</b>: 情報発信～特色ある教育活動や児童の様子の紹介等、自校の成果と魅力の最大限の発信…3.6</p> <p><b>保</b>: 学校は、参観日や個人懇談、学校・学年だより、マチコミメール、学校HP等により、学校や子どもの様子などがよく伝わるように努めている…3.6</p>	A	<p><b>評</b> 学校HPでの情報発信を継続するとともに、学年だよりの電子配信 (tetoru) を本格運用した。保護者からは迅速な対応への感謝の声をいただいた。配信業務も効率化が図られ、働き方改革にも寄与している。</p> <p><b>改</b> 保護者から感染症流行時の情報発信についてご意見をいただいております。tetoruを通じた適時適切な情報提供を徹底する。また、タブレット活用や授業の工夫など、日常の教育活動の様子についても発信を充実させていく。</p>	A	A

<p>教育課程・学習指導</p>	<p>■授業改革…基礎・基本を定着させ、3つの資質・能力(①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力」③「学びに向かう力・人間性等」)を育む教育が推進されているか。  <b>【評価指針と評価結果】</b>  <b>学</b>:学習規律、ノート指導等、学力向上に関わる基礎・基本の徹底…3.7  <b>学</b>:TT指導や個別指導・教科担任制を活用した学習指導の充実…3.7  <b>学</b>:家庭学習習慣確立のための工夫…3.5  <b>学</b>:教科で身につけた知識・技能を活用できる特色ある教育活動の充実…3.6  <b>児</b>:授業では、よく考え、伝え合い、考えが深まっていますか…3.4  <b>児</b>:自分の考えをすすんで発表したり、書いたりすることができていますか…3.2  <b>児</b>:授業で学んだことを、次の学習や他の教科、生活の場面でいかしていますか…3.4  <b>児</b>:学校の勉強はよくわかりますか…3.6  <b>保</b>:学習のきまりを大切に、意欲的に学習に取り組んでいる…3.3</p>	<p>A</p>	<p><b>評</b> アンケート等からは児童自身が学習に向かう力の高まりを実感していることがわかる。また、全国学力・学習状況調査やNRT標準学力検査等からも本校児童に学力が定着していることがわかった。  TT指導や教科担任制の活用により、児童の「わかる」実感が高まっている。特別支援教育についても高い評価を得た。保護者からは教科担任による専門性を生かした指導への肯定的な声をいただいた。一方、自分の考えを発表したり書いたりする力については課題が見られた。  <b>改</b> 次年度は、基礎・基本の確実な定着と対話によって考えを深める授業改善を進めていく。特に、「書くことを通じた思考力・表現力の育成」を学習指導の重点とする。ノート指導の成果を土台に、自分の考えの変容過程を記述させる指導を充実させていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学習指導</p>	<p>■今日的教育課題…時代を見通したあらゆる可能性を育む教育が推進されているか。  <b>【評価指針と評価結果】</b>  <b>学</b>:ICT機器を積極的に活用した教育活動の工夫・改善…3.7  <b>児</b>:タブレットを使った学習に進んで取り組んでいますか…3.8  <b>保</b>:学校は、ICT活用等、授業の工夫に積極的に取り組み、「確かな学力」の育成に努めている…3.4  <b>学</b>:家読、朝読書の取組等、豊かな心と読む力を育てる継続した読書指導の推進…3.7  <b>児</b>:学校や家で、すすんで本を読みましたか…3.3  <b>保</b>:お子さんには一日の中に読書の時間を設けたりするなど、家庭でも本に触れる機会がある…2.5  <b>学</b>:キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実…3.4</p>	<p>A</p>	<p><b>評</b> 児童のタブレット活用への意欲は高く、学習発表会に向けた自主的な練習など、学習ツールとして定着してきている。  一方、読書活動については学校での取組は充実しているものの、家庭での読書習慣との間に大きな開きがあり、本校の重要課題となっている。  <b>改</b> ICT活用についてはさらなる研修の充実を図り、効果的な活用を推進する。読書習慣の定着に向けては、学校での取組を家庭に発信するとともに、保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ活動の拡充など、本に親しむ環境づくりを進めていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>生徒指導</p>	<p>■健康・安全…健康で活力ある生活を日常化させる教育が推進されているか。  <b>【評価指針と評価結果】</b>  <b>学</b>:体育授業、体力テスト等を最大限に活用した体力づくりの充実…3.6  <b>児</b>:体力づくりにすすんで取り組みましたか…3.4  <b>保</b>:お子さんには適度に体を動かした遊びやスポーツに取り組む機会がある…3.0  <b>学</b>:「大麻スタンダード生活8箇条」定着に向けての指導…3.7  <b>児</b>:「大麻スタンダード生活8箇条」を守ることができましたか…3.4</p>	<p>B</p>	<p><b>評</b> 北翔大学との連携による体力テストを全学年で実施することができた。「大麻スタンダード」は定着が進み、落ち着いた学校生活を送れている。一方、家庭での運動機会については季節的要因を考慮しつつも冬季に低下する傾向が確認された。挨拶については場面に応じた実践に課題がある。  <b>改</b> 来年度は体力テストの前に、児童に対し、北翔大学の学生による指導助言の時間を設ける等して運動能力をさらに伸ばしていく。挨拶については児童会活動を継続</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

<p><b>保:</b> 集団や社会のきまりを守るなどの規範意識が育っている…3.4</p> <p><b>学:</b> 素直な心の育成、挨拶の徹底等、予防的生徒指導の推進・積み上げ…3.5</p> <p><b>児:</b> 自分から進んで挨拶をすることができますか…3.4</p> <p><b>保:</b> 元気で明るい挨拶ができている…3.3</p>		<p>するとともに、家庭・地域と連携した取組を進め、どのような場面でも自然に挨拶ができる児童を育てていく。</p>		
<p>■豊かな心…自主性、思いやりの心を育てる教育が推進されているか。</p> <p><b>【評価指針と評価結果】</b></p> <p><b>学:</b> 心に響く道徳教育の推進と道徳指導に関する研修の充実…3.6</p> <p><b>学:</b> Q-U 検査等を活用した思いやりのある支持的風土の学級づくりの推進…3.7</p> <p><b>学:</b> 自主性や思いやりの心を育む児童会活動の推進…3.7</p> <p><b>学:</b> 家庭・地域と連携し、生命尊重を基盤とした健康・安全教育の推進…3.6</p> <p><b>児:</b> 友達と助け合いながら、仲良く過ごすことができますか…3.7</p> <p><b>児:</b> 先生とたくさん話をしたり、困ったことがあったときに相談したりしていますか…3.3</p> <p><b>保:</b> 命を大切にできる態度や人を思いやる気持ち、感動する心など、「豊かな心」が育っている…3.3</p>	B	<p><b>評</b> 学習発表会では友達と協力して作品を作り上げる姿が見られ、仲間づくりの成果が表れている。友達との関わりについては高い評価を維持している。一方、教師や大人とのコミュニケーションについては中間評価から低下が見られ、関わるの機会を増やしていく必要がある。</p> <p><b>改</b> 次年度においても、「判断力を備え、目標達成に向け自ら行動する態度」としての『主体性』の伸長を教育活動の最重点に据える。「自主的から主体的へ」の質的転換を図るため、児童が自ら判断し実践する場面を意図的に創出していく。また、全教職員が「主体性」の定義を再認識し、児童の挑戦を支える適切な支援の在り方について研修を充実させる。</p>	A	B
<p>■学校いじめ防止基本方針に基づいて、実態等を周知したり、組織的に対応したりすることができるか。</p> <p><b>【評価指針と評価結果】</b></p> <p><b>学:</b> Q-U 検査いじめ・不登校～いじめアンケート等を活用した実態把握と全職員による粘り強い対応…3.7</p> <p><b>児:</b> 友だちと助け合いながら、仲良く過ごすことができますか…3.7</p> <p><b>児:</b> 学校へ通うのが楽しいですか…3.7</p> <p><b>保:</b> 子ども同士や教師とのコミュニケーションをとることができる…3.3</p> <p><b>保:</b> 学校は保護者とのコミュニケーション（子どもに関しての連絡・相談）を積極的に行い、意思疎通に努めている…3.4</p>	A	<p><b>評</b> 学校では国や道の指針に則り、年3回のアンケート等や、児童との個人面談、日常の様子観察、教職員間の情報交流による実態把握といじめの未然防止に努め、積極的ないじめの認知と早期解決に心がけてきた。また、北翔大学の山谷学長を講師に招き、Q-U 検査の研修を実施し、児童が安心して過ごせる環境づくりに努めてきた。情報モラル教室も実施し、児童は関心を持って参加していた。保護者からは SNS に関するトラブルへの懸念や、早期の情報共有を求める声をいただいた。</p> <p><b>改</b> いじめ対応については、未然防止および初期段階での解決を最優先とする。教師と児童、学校と家庭との日常的なコミュニケーションを基盤に、SNS 等の利用状況も含めたいじめが起きにくい環境づくりに努めていく。あわせて、児童・保護者が相談しやすい関係性を構築し、丁寧な説明と組織的かつ迅速な対応を徹底しながら、安心・安全な教育活動を推進する。</p>	A	A

小中一貫教育	<p>■義務教育9年間の「目指す子ども像」実現に向け、「系統的な指導」「一貫した指導」「相乗的・補完的な指導」を行い、教育活動を充実させることができたか。</p> <p><b>【評価指針と評価結果】</b></p> <p><b>学:</b>小中一貫教育～各部が組織的に校区内小中学校と連携した小中一貫教育の推進…3.4</p> <p><b>学:</b>翌年度以降の進級・進学を見据えた指導…3.5</p> <p><b>学:</b>「大麻スタンダード生活8箇条」定着に向けての指導…3.7</p> <p><b>児:</b>「大麻スタンダード生活8箇条」を守ることができましたか…3.4</p>	B	<p><b>評</b> 大麻中学校区「教科部会」を継続し、小中間の系統的な指導の充実を図った。「大麻スタンダード」は児童に定着してきている。保護者からは中学校生活に向けた指導への期待の声をいただいた。一方、校区4校の教職員間の連携については、さらなる充実が求められる。</p> <p><b>改</b> 令和8年度に本校へ小中一貫教育事務局が移管されることを見据え、受け入れ準備を進めていく。大麻中学校区4校のコミュニティ・スクールの連携強化を図るとともに、中学校への円滑な接続に向けた情報提供を計画的に行っていく。</p>	A	A
学校組織	<p>■質の高い教育活動等を推進する学校組織体制を構築することができたか。</p> <p><b>【評価指針と評価結果】</b></p> <p><b>学:</b>全職員の主体的な参画と信頼関係を基盤とした協働体制の確立…3.7</p> <p><b>学:</b>江別市働き方改革の徹底と日常の業務改善の工夫…3.1</p>	B	<p><b>評</b> 企画運営委員会の機能強化により、学校運営の方向性が教職員間で共有され、会議の効率化も図られた。一方、働き方改革については目標達成に至らなかった。年度後半に校内ポータルサイト等のDX化を導入したが、効果検証は今後の課題である。</p> <p><b>改</b> 今年度導入したDXツールを年度当初から本格運用し、業務効率化を推進する。新たな取組を行う際には既存業務の見直しを併せて行う「スクラップ&amp;ビルド」の視点を大切にしていく。</p>	A	A
地域連携	<p>■保護者や地域(自治会・大学等)と連携・協力し、地域の教育力を生かしながら、地域に開かれた「信頼される学校」づくりが進められているか。</p> <p><b>【評価指針と評価結果】</b></p> <p><b>学:</b>家庭・地域連携～目標やビジョンを家庭・地域と共有するなど信頼される学校づくりの推進…3.6</p> <p><b>学:</b>大学連携～体力テスト、出前授業、授業ボランティア等による体験的授業づくりの充実…3.9</p> <p><b>学:</b>コミュニティースクール～学校運営委員会との連携充実による地域と共にある学校づくりの推進…3.6</p>	A	<p><b>評</b> 北翔大学との連携は引き続き充実しており、体力テスト支援や出前授業等を実施した。今年度も修学旅行での横山教授による火山学習、大宮准教授による体育の出前授業、山谷学長による教職員への研修等を実施することができた。</p> <p>PTA活動においては、PTA主催のイベントを夏、冬の年2回実施し、どちらも盛会であった。また、校舎に設置されている天体望遠鏡を利用した「星見会」での観察は全家庭を対象に実施できた。</p> <p>地域との関わりにおいては文教クラブのみなさんと共に地域の環境づくりに取り組む活動が天候の状況から実施できなかったが、次年度は引き続き実施していく。</p> <p><b>改</b> 児童の実態や学校が抱えている課題について、情報提供や連携を進め、学校・家庭・地域が一体となって児童の健やかな成長に積極的に関わることで、いっそう「地域とともにある学校」づくりを進めていく。</p>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- 「豊かな心」の育成については、自己評価における改善策がやや抽象的であると感じられる。今後は「子どもたちが日常的に、かつ気軽に相談できる関係づくり」など、より具体的な取組を期待したい。
- 児童の体力向上に関し、家庭での運動習慣定着には依然として課題が見られるものの、学校としてネット型・ボール・ダンスなど多様な運動系クラブ活動を充実させている点は評価できる。今後も学校でできる限りの機会提供を継続していただきたい。
- 「大麻スタンダード」については、児童への浸透は進んでいるが、保護者や地域住民といった大人側への理解がまだ十分とは言えない。学校・家庭・地域が一体となった指導体制を築くためにも、さらなる周知と浸透を図る必要がある。
- 教職員の働き方改革における業務の精選については、学校独自の努力に加え、市教委による積極的な牽引を期待する。限られた人員体制の中ではあるが、学生ボランティアやサポート教員を効果的に活用し、教育の質を維持している現状を今後も継続してほしい。
- 森の子児童センターをはじめ、地域の多様な分野から温かい支援をいただいていることに深く感謝したい。今後も地域全体で子どもたちの成長を支え、「地域とともにある学校」としての絆をより深めていくことを確認した。